

# 長伐期化に対応した森林管理・中大径材利用技術の開発

—長伐期化に対応した中大径材利用技術の開発—  
平成 19 年度～22 年度（県単・重点）

宮本正行

## 1. 背景

県内のスギ人工林は伐期の長期化に伴って大径化しつつあり、中大径材の有効活用が課題となっている。

県産平角材が梁・桁など断面の大きな横架材として多く利用されるようになれば、県産材の需要拡大に大きな効果があり、林業関係者から期待されている。

また、県産材の利用に高い関心を持つ工務店、設計者などからの要望もあり、県産スギ材の横架材としての利用を促進するため、県産材スギ横架材スパン表を作成した。

## 2. スパン表のねらい

- (1) 県内における木造軸組工法で建築された住宅の梁・桁材は、ベイマツや欧州産材ラミナによる集成材など外材が多く使われている。設計者や工務店等が、外材から県産材への移行や今まで経験で決定してきた断面の確認を行う場合、このスパン表を利用して簡単に安心して行うことができる。
- (2) スパン表における断面寸法は、代表的な条件を設定し、建築基準法で定められた許容応力度計算により算出しているが、部材の使用条件が当スパン表の設定条件より安全側でなければ使用することができない。このため、適用条件をわかりやすくフローチャートに整理した。
- (3) スパン表の作成に当たっては、大学、林業・木材関係団体、建築設計士等と連携を図った。

## 3. 作成条件

- ・ 2階建て以下及び延べ床面積 500m<sup>2</sup> 以下の木造軸組工法住宅
- ・ モジュールは 910mm
- ・ 部材は床小梁、床大梁、胴差、小屋梁、軒桁
- ・ 材幅は 120mm、135mm（小梁は 105mm、120mm）

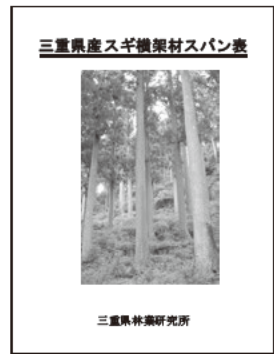


図-1. 表紙

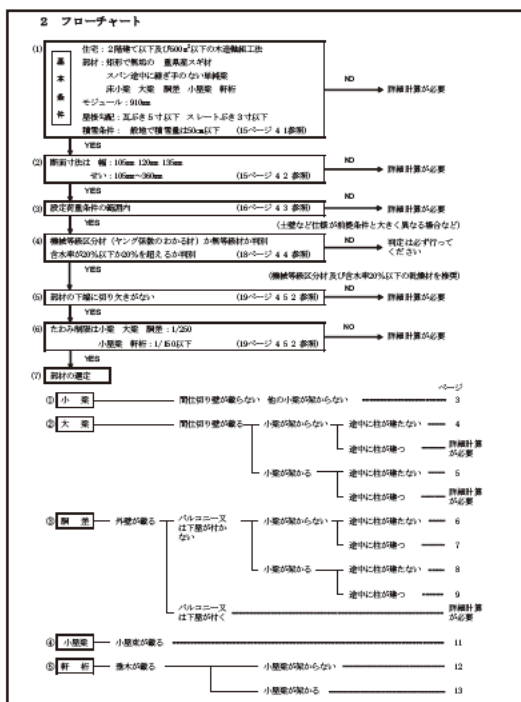


図 2. フローチャート

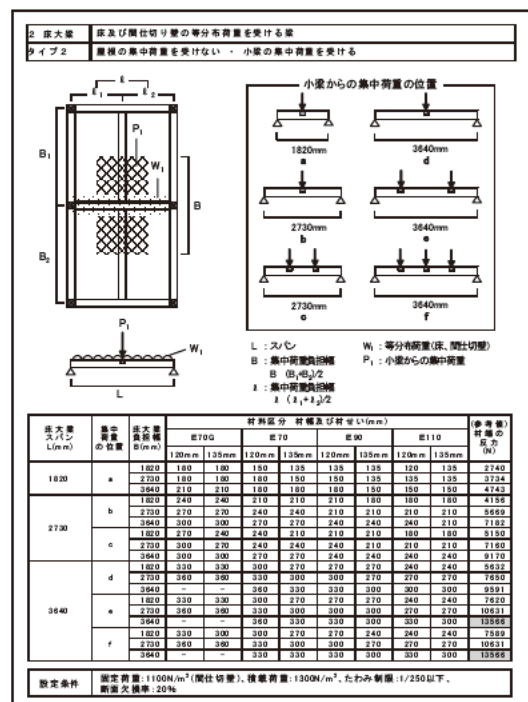


図 3. スパン表の例（床大梁）